



SINCE 1901 感謝と希望を
日本女子大学・創立100周年

図書館だより

目次

ヴィクトリア朝の女性読者

最良の読書法とは？

「今、学生にすすめる本」特集（その5）

大畑 祥子

谷中 信一

馬場 哲雄

河口 道朗

出淵 敬子

高木 郁朗

濱野 成生

中谷 陽明

中村 輝子

これからの「本の世界」

と「図書館の世界」を知る

雑誌記事索引（WEBサービス）の使い方

図書館（目白、西生田）からのお知らせ

図書館事務室より

田中 功

飯山 智子



ヴィクトリア朝の女性読者

-- 最良の読書法とは？ --

出淵 敬子

どんな読み方が最良の読書法かと訊かれると、本の読み方はその目的によって千差万別なので、答えに窮する。しかしこのような質問に親切に答えようとした人々が多くいた時代があった。イギリスのヴィクトリア女王の時代（1837 - 1901）である。よく知られているようにこの時代には産業革命の結果、富裕な中産階級が増え、時間的にも経済的にも本を読むゆとりのある女性の読者層が広がっていった。

とりわけ若い女性の読書に関しては実にさまざまな助言が与えられた。女性の精神的成長に読書は大きく影響すると考えられていたからである。実際に助言されたことは一言で言えば、明確な目的をもって本を読み、考えを深く知識を広げて、個性を磨き、女性としての自己を向上させることだった。当時「女性はあまりに多くを読み、あまりに少ししか考えない」と言われていたので、若い女性は率直な読後感を書くことを勧められた。そうすることで自己を明確にし、同時に著者の文体から達意の文章の書きかたを学べると考えられたからだ。若い女性にしばしば悪影響を及ぼすと非難された架空の物語（ロマンス）も、女性にとって大切な「思いやり」を育て、人格形成の上で知的道徳的な礎となり、若い読者に現実と虚構の世界を混同させ易い小説は、根本的には真摯な意図を持つものであると認められてきた。

本の読み巧者になるためには「備忘録」を作ることが勧められた。本の中で意味のわからない単語に出くわしたら、必ず辞書を引き「備忘録」に書き留める。そのようにして言葉の微妙なニュアンスを理解する力をつけるのである。また著者の主張の論旨を要約して記入したり、感銘を受けた一節や洞察に富む言葉、美しい表現などを書き記すことも、「備忘録」の大切な使い方であった。

このようにしてヴィクトリア朝の中産階級の女性達は、読書によって「活気のある知的生活を楽しんだ」と言われている。この時代の読書の楽しみについて見落としてはならないものは、声に出して読む方法である。18世紀末のジェイン・オースティンもヴィクトリア朝のブロンテ姉妹も生涯の大半を父の牧師館で過ごし、日曜の午後や夕食の後、家族が居間に集まると、本を朗読して楽しむ習慣があった。この背景には独りで読書するより人の集まりの中で朗読するほうが、健全な教育に資するという考えもあったことだろう。しかし朗読を聴く中から小説家が誕生していったことは、物語と聴衆との間に存在した深いつながりを示唆している。

（図書館長・英文学科教授）

「今、学生にすすめる本」特集(その5)

大畑 祥子 (児童学科教授)

津守真著 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 1997年(初版)

私たちはだれしもが幼児期を過ごしてきたのですが、その時のことは意識的な記憶に残らないために、子どもの世界を大人の論理で理解し、解釈しがちです。心理学者である著者は、客観的な実証的方法で子どもの研究を続けてこられました。しかし「子どもとともに生きる生活の中で子どもの世界は発見される」ものであると、大学教授の職を辞して養護学校の保育者になられます。

本書には保育者として、毎日を子どもと過ごした具体的なエピソードと、その理論が記されています。子どもへのこのうえない温かいまなざしと実際のかかわりが、平易で詩歌のような文体で語られます。その深奥な内容はどのページを繰っても、現代の子どもたちの抱えているさまざまな問題や、そこにかかわる大人の悩みを、解きほぐす糸口が見いだされます。障害を持つ子どもの保育を通して人間理解のためのメッセージに充ちており、ぜひ一読をお奨めします。

高木 郁朗 (家政経済学科教授)

ロバート・ハイルブローナー著 中村達也・阿部司訳 『私は、経済学をどう読んできたか』
ダイヤモンド社 1997年

経済学は近代が生みだした学問であるが、長い前史ももっている。この本は、聖書にはじまり、J・M・ケインズにいたる経済学の古典からエッセンスを抽出したものである。ハイルブローナーの導きで、読者は知らず知らずのうちに経済学の真髄にひきこまれていくだろうし、現代社会におきているさまざまな事象について考えるよい土台を得るに違いない。とりあげられている古典にはすべて人間社会のあり方を考えるさまざまな知恵と示唆が含まれているからである。この本を手がかりに気に入った本をさらに探索していく楽しみもできるだろう。経済学が数学の延長だと誤解して食わずぎらいになっている人にはとくにすすめたい。

谷中 信一 (日本文学科教授)

「20世紀は戦争の世紀だった、21世紀は環境の世紀になるだろう」と言われる。人類は、引き続き存亡の危機に直面し続けるであろうと言うのだ。確かに、昨今の環境問題は日よほし深刻さを増している。では、どのような観点に立てば、その深刻さがより具体的に理解できるだろうか。

加藤尚武著 『環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー、1991)は、今生きているわれわれ世代だけでなく、子々孫々にまで思いを馳せて考察すべきことを教えてくれる。

シーア・コルボーン等著・長尾力訳 『奪われし未来』(翔泳社、1997)は、これまで断片的に知られてきた環境汚染の実態と原因とを、詳細なデータをもとに究明した。その後、「環境ホルモン」という恐ろしい語が流行語となったほどである。ところで、環境問題にいち早く警告を発していたのは、レイチェル・カーソン著 『沈黙の春』(新潮文庫、1974。62年原著刊行後、64年『生と死の妙薬』として翻訳出版)であったことを忘れてはならない。これも必読書だ。

コルボーン氏もカーソン氏も共に女性である。命を生み育む女性としてこうした問題に最も敏感だったのであろう。当時の冷やかな世論と戦いながら名著を世に出した彼女らの勇気と知性に深く感動せずにはおれない。

濱野 成生 (英文学科教授)

H・ジョセフソン著 小林勇訳 『絶対平和の生涯』 藤原書店 1997年

これは日米戦争開戦当初、アメリカの議会でたった一人、参戦決議に反対票を投じた女性議員ジャネット・ランキンの、93年に及ぶ生涯を描いた、さわやかにして勇気あふれる評伝である。彼女はモンタナの田舎に少女時代を過ごし、女性に参政権をと叫ぶことから信念を貫いてわが道をあゆみ、2度の大戦に女性の立場から大反対を唱え続けて譲らず、ヴェトナム戦争にも反戦家として貢献。生命を賭しての平和運動は、ケネディ大統領をして、「アメリカ史上最も恐れを知らぬ女性」と言わしめた。諸君もこれを読んで、理想をけっして棄てず常に平和のために献身した人生にふれ、自らも社会に役立って生きること邁進する決意を固めてもらいたい。ともすればささやかな自己愛を満たすに終りがちな現代のライフスタイルに、これは大きな反省をうながし、諸君を励す名著である。

馬場 哲雄 (現代社会学科教授)

三浦綾子 著 『道ありき』 新潮文庫

私の手元に「主にあるお言葉並びに学生さんたちの寄せ書き、まことにありがとうございます。お仰のとおり三十五人の皆さま、お一人々々に御祝福が豊かにそそがれますようにお祈り申し上げます。綾子はパーキンソン病で悪戦苦闘しております。ひきつづきご加禱下さいませ、皆さまによろしくお伝え下さい」と認めてある葉書があります。これは8年前の軽井沢セミナーで、三浦綾子さんへの感謝の寄せ書きをした折りに、夫である光世さんから頂戴したものです。実はこれよりも数年前にも、セミナーの受講生と一緒にお礼の寄せ書きを差し上げたら、全員に三浦綾子さんの直筆のサインと励ましの言葉が書かれたご自著書が送られてきたことがありました。多忙の上に、病弱な三浦さんのこの行為に、学生30数名と感動し涙したものでした。その後は却ってご負担になるといけないと思い、寄せ書きは止めました。三浦綾子さんは残念ながら昨年秋に召天されましたが、著作とその行為は、これからも私の心に残り続けるものと思います。本のお薦めよりも人物の紹介になってしまいましたが、人柄を知って本を読むのもよいでしょう。

中谷 陽明 (社会福祉学科助教授)

大ベストセラーとなった乙武洋匡氏の『**五体不満足**』(講談社、1998年)は、従来の「障碍(害)者観」を一変するものであった。乙武氏の本が人間の明るく前向きな面をみせてくれたのに対して、より「人間的」な面をみせてくれるのが次の2冊である。北島行徳氏の『**無敵のハンディキャップ**』(文春文庫)は、既存のボランティア活動に今ひとつなじめなかった著者が、障碍者の仲間と障碍者プロレスの興行団体を作ってしまう話である。この本に登場する障碍を持つ面々は、目立ちたがり、嫉妬深く、だらしない。そして魅力的である。もう一冊は、お笑い芸人でもある障碍者の**ホーキング**青山氏による『**笑え! 五体不満足**』(星雲社発売、1999年)で、こちらは一步間違えば有害図書(?)に指定されそうな勢いのエッセイ集である。固定観念や偏見は、知識や情報の不足から生じることが多い。これらの本から、障碍を持つ人たちの真の姿をみてほしい。そういった意味で、小林照幸氏の『**熟年性革命報告**』(文春新書)も、高齢者の真の姿の一面を描き出している本である。こちらを一読をおすすめする。

河口 道朗 (教育学科教授)

今日、私たちは音に対して鈍感になってしまったのではなからうか。教室、食堂、ロビー、車内、歩行時、時と場所をわきまえず、周囲への頓着なしに、のべつ幕無しに喋り続けているいだらうか。そして自然の音、環境の音にじっと耳を傾ける、という人間の最も基本的な生活の方法と態度を蔑ろにし、いい加減にしていないいだらうか。

宮本まどか著『**風のレッスン**』(静岡新聞社、1998)は、生来聴覚に極度の障害をもちながら、幼稚園でのいじめ、周囲の無理解に挫けずに音の世界で自立し、トークとピアノ演奏を通して人々に深い感動をあたえている著者の体験をエッセイ風にまとめた本である。

宮下富美夫著『**癒しの音を求めて**』(春秋社、1999)は音楽との出会い、「ヒーリング・ミュージック」への自覚によって人生を見詰め直している著者の体験記である。

いずれも学術書ではないが、音の世界への新たな覚醒を促してくれる好著だと思う。

中村 輝子 (物質生物科学科教授)

レイチェル・カーソン 著 青木築一訳 『**沈黙の春**』 新潮文庫

レイチェル・カーソンが化学公害の古典『**沈黙の春**』を著わしてから、はや40年近くが過ぎた。彼女の警鐘は今や現実の恐怖となって、地球人類の前にはだかっている。近年環境物質の動物生殖能力への深刻な影響が察せられるようになってきたが、これもまさに彼女が心配していた通りの状況である。改めてその洞察力に感心する。21世紀の地球人類は、ホモ・サピエンスの知力をかたむけてこの問題に挑戦し、その滅亡時期を先のばしにすることができるのであろうか。当書により、宵闇に静かによせる磯辺の波を眺めて、地球各地の海や生物に思いをはせる、海洋生物学者の想像力や、かけがえのない地球への思いにふれることができる。今や環境破壊の状況はよく知られているが、それにもかかわらず今日この古典を読むことの意義は、レイチェル・カーソンの環境思想を学ぶことにある。

これからの「本の世界」と「図書館の世界」を知る

田中 功

ここ数年図書館が変わってきている。最近建設される新しい公共図書館は、本を借りる、資料を調べるといった従来の「機能型」から、ゆったりと過ごせるような居心地のいい読書環境を提供する「滞在型」を目指している傾向がみられる。

例えば現代的な造りのなかに畳コーナーを設けている図書館。利用者は和みながら読書にふけることができ、疲れたらここで囲碁、将棋も楽しみながらできる。じゅうたん敷きのブラウジングコーナーのある図書館。ここでは自然光を豊富に採り入れ広々とした窓からは緑あざやかな庭園が見渡せ、くつろいだ気分で読書を楽しむ。また屋外の閲覧スペースを設け、まるで公園感覚で野外読書ができる図書館もある。本が並ぶ室内から一步出ると、緑に囲まれた庭が広がって、そこで館内の図書を自由に読むことができる。名付けて「図書園」。

また利便性を重視する図書館もあらわれてきている。1998年にオープンした山口県の須佐町立図書館は24時間開館の「コンビニ型図書館」で話題になった。

このように読書をゆっくり楽しみたいというアナログ派にとって、その要求を満足させそうな図書館環境の変化とは別に、もう一つの変化は本と図書館のデジタル化への取り組みである。本の電子化では昨年、電子書籍コンソーシアムで「ブックオンデマンド実証実験」を実施。これは、出版物の電子化されたコンテンツ(3464点)を通信衛星を使って書店や大学生協に設置された販売端末で販売し、読者はそれを高精密液晶読書リーダーで読むという新しい試みであった。いよいよ電子書籍端末の時代の到来を実感させる。

ここではこのように変わりつつある「本の世界」と「図書館の世界」がさらにこれからどのように変貌していくのかを知り、また考えるための本を紹介した。



『本の未来』

富田倫生著 アスキー 1997 262 p

紙の本と電子化された本とでは、「一冊の本を読む」ということに限定すれば、手軽さでは文句なく紙が有利。ただし「数千冊の本」と比べることが許されるならコンピュータである。省スペースの点では、圧倒的に紙に勝っている。鳥流しにあうとしても、CD-ROM一枚もっていけば、まず十年やそこらは読むものに不自由しないだろう。しかしハードウェアとソフトウェアの双方を改良して、より読みやすく扱いやすい電子本を作ることが不可欠で、理想の電子本は、まだ我々の手の内にはないと著者は語る。

『図書館から情報ステーションへ』

渋谷和人著 大学教育出版 1998 220 p

これからのデジタル化がすすむ図書館環境において、図書館員





のあり方を次のように説いている。インターネット環境の深化は大学図書館を大きく変えていく潜在力を持つ。図書館での資料購入、組織化、レファレンス、そして貸出などの提供業務もインターネット経由で運用される。それぞれのスタッフはインターネットを通して世界のライブラリアンと多様なテーマでコミュニケーションしている。これからの大学図書館のスタッフとしては新しい情報オーガナイザーとしての役割、すなわち Information Editorship (情報編集者)としての役割が求められるようになるであろう。

『本と人のための空間 図書館建築の新しい風』

鹿島出版会 1998 168 p
(SD別冊 31号)

日本と外国の新しい図書館46館を紹介し

た写真集。その中の一つ、ミシガン大学はデジタル図書館への取り組みが世界的にみても最も積極的な大学の一つである。1996年に建設された「メディアユニオン」という名称の図書館は芸術、建築、デザイン、工学分野の情報を収集。この図書館は図書、雑誌など従来の図書館機能、デジタル情報のアクセス機器を備えるデジタル図書館機能に加えて、スタジオやラボラトリーと呼ぶ多くの情報作成機能が融合された図書館であることを特色としている。60万冊の図書、各階の閲覧スペースには合計500台以上のワークステーションが並ぶ。ここから国内外のデータベースへのアクセスが自由自在。その他ここで紹介されているどの図書館も、これからの図書館の変化と発展に対応できるような配慮が建築面に伺えることである。

『電子図書館が見えてきた』

宮井均、市川俊治著 NECクリエイティブ 1999
117 p

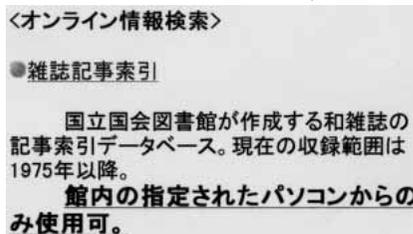
電子図書館の開発側からのメッセージの本である。システム化された「バーチャル図書館」が近い将来に登場するのは間違いのない。自宅に居ながらにして利用できる図書館へという、ニーズに応える方向に着実に向かっている。現在、行われている電子図書館の多様なアプローチは決して悪いことではなく、やがて統合的な方向に向かうと思われる。そのためには、いろいろな側面から検討し、試行錯誤をしておく必要がある。新しい図書館像として描かれる「電子図書館」の姿は、まだ漠然としているが、やがてイメージが鮮明になり、形を捉える段階がくる。進歩のための自然なプロセスと考えれば良いと著者は述べている。

(図書館事務部長・日本文学科教授)



雑誌記事索引 (WEBサービス) の使い方

本年4月より「雑誌記事索引」が目白図書館・西生田図書館ともに、NICHIGAI/WEBサービスを使ったインターネット経由でのオンライン検索ができるようになりました。アクセス方法は簡単です。図書館ホームページの学外サーバからオンライン情報検索の「雑誌記事索引」の文字をクリックするだけで利用できます。ただし注意書きにもあるように、図書館内の特定のパソコンからのみの利用となっています。目白図書館で3台、西生田図書館で1台(もう1台は現在準備中)の指定されたパソコンで利用してください。また、検索結果の出力も1枚10円でできます。カウンターに申し出てください。



「雑誌記事索引」とは、国内で刊行され国立国会図書館が所蔵する雑誌のうち、国会図書館が採録対象誌にした雑誌に掲載された記事情報を収録した索引です。採録対象誌は学術雑誌、大学紀要、専門雑誌が主で、収録分野は人文・社会、科学・技術、医学・薬学等の全分野にわたっています。そのうち現在オンラインで検索できるのは1975年以降の記事約330万件です。

< 検索のしかた >

記事は記事・論文名や著者名などで検索できます。特に指定しない場合は「雑誌分野」は全分野、「雑誌発行年」は最近3年分の記事・論文を検索します。

* あるテーマを検索したいとき

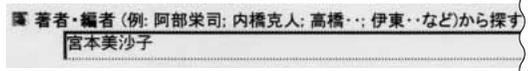
何かのテーマについてその言葉で検索したいときは、「記事名・論題名」下の白枠の中に検索したい言葉を入力して、「検索実行」ボタンをクリックしてください。その言葉がはいった記事・論文が検索できます。

例えば、「絵本」について書かれた論文を探したい場合、白枠に「絵本」と入力します。さらに絵本といっても、「日本の絵本について探したい」と検索対象を絞る場合には、その下の白枠に「日本」と入力します。すると「絵本」と「日本」の両方の言葉が論題に含まれている記事・論文が検索されます。

*** 著編者で検索したいとき**

記事・論文を書いた人から検索したいときは、[著者・編者] 下の白枠に著編者名を入れます。

例えば宮本美沙子先生の論文を探しているときは白枠内に“ 宮本美沙子 ”と入力します。

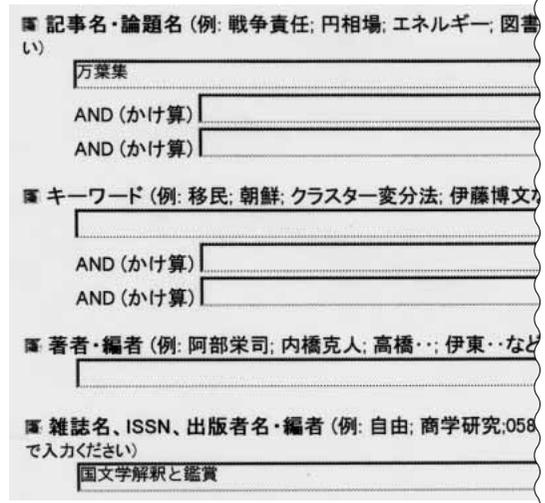


*** 雑誌名で検索したいとき**

[雑誌名、...] 下の白枠に雑誌名を入れると、その雑誌に載った記事・論文の論題を一覧することができます。

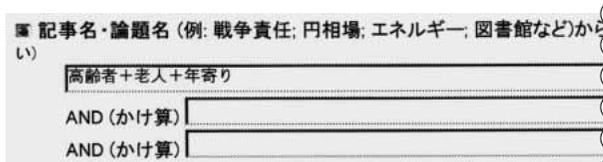
例えば白枠内に『国文学解釈と鑑賞』と入力すれば、最新号から順に論題を一覧できます。

さらに [記事名・論題名] の部分に“ 万葉集 ”と入力すれば、その中で万葉集という言葉が論題に入っている記事・論文を絞り込むことができます。



*** 同義語がある場合などの使い方**

検索したい言葉に同義語がある場合 (例: アメリカ・米国・USA等) や、A または B のどちらかの言葉を含んでいる記事・論文を探したい場合、それらを同時に入力して検索することが可能です。言葉と言葉の間に + を入れて検索してください。



検索の件数が多くなりそうな場合は別の項目に言葉を入れるなどして結果を絞り込んでください。

[注 意]

検索した結果が1000件を超えると結果表示はできませんので、その場合は他の言葉を加えるなり、年代を狭めるなりして検索結果を絞り込むようにしてください。

[重 要]

「雑誌記事索引」は“ 誰が書いたどんな論文がどの雑誌に載ったか ”という事を調べる索引です。実際の論文を読むには、次に、その論文が載っている雑誌を探さなくてはなりません。そのためには、検索結果表示から雑誌名、巻号、年号を控えて、本学の所蔵をOPACで調べてください。その際注意することは、その論文の題名や著者名で検索するのではなく、その論文が載った雑誌名で検索するということです。

(館員・参考係 飯山智子)

図書館（目白、西生田）からのお知らせ

夏休み中の9月目白の図書館は工事のため閉館します

目白の図書館は1964年に建築され、現在36年経ています。今まで天井改修工事など様々な工事を実施して、より良い環境が保てるように努めてまいりました。今年の夏休み期間中には、床タイルの張替工事を実施することになりました。8月30日までの夏期スクーリング閉館の後、8月31日より9月19日までの期間閉館して改修工事を実施いたします。利用者の皆さまには大変ご不便をおかけしますが、どうぞご協力をお願いいたします。

西生田生涯学習センター受講者の本学図書館利用について

西生田生涯学習センターの受講者の方で、本学図書館の利用を希望される場合は、西生田生涯学習センター事務室で所定の料金を払うと、日本女子大学図書館「入館証」が発行されます。利用内容は、図書館入館、蔵書閲覧で図書の貸出はできません。

受講者の方の図書館利用は西生田図書館のみでしたが、6月1日より目白の図書館も利用できるようになりました。目白の図書館を利用される場合も、「入館証」を図書館受付カウンターに提示し、「バッジ」を付けてご利用ください。

西生田生涯学習センター講師の本学図書館利用について

西生田生涯学習センターの講師で本学図書館（目白、西生田）の利用を希望される方は、講師ご担当の年度は非常勤講師に準じて利用できるようになりました。利用登録は図書館カウンターで受け付けます。本学教員（附属校園を含む）の講師の方は、従来どおり本学教員として図書館をご利用になれます。

図書館事務室より 人間社会学部は創設10周年となり、西生田図書館も、平成2年4月10日の開館以来、開設10周年を迎えた。顧みれば、本学が遠隔地間に二つの図書館を擁することとなるこの一事を契機として、ネットワーク構想が生まれ、図書館システムの構築が開始された。当初の目標は、目白、西生田の学生、教職員に、良質で均質な利用サービスの提供を実現させることにあり、その着手と開発は、何よりも一つの図書館として機能させたい一心の努力により、困難な中にも弛まぬものがあった。開設時は、3人の館員、蔵書3万冊のささやかな第一歩であった。10年後の今日、西生田で所蔵する図書はおよそ13万冊、雑誌は3千種類に達し、本年度は8人となる館員が持ち場ごとにその役割を果たしている。図書館だよりの記事の多くは、専ら利用者に直接的なサービスのお知らせであるが、カウンターからは見えない奥の事務室でも、利用サービスに関わる業務が遂行されている。蔵書構築の基盤となる資料購入費の予算管理を初めとして、閲覧に供する資料の受入、検索手段を整え、上質のデータベースを構築して、資料や情報をよりよく提供できる準備をする部門であり、間接的ではあるが、利用者を蔭で支える重要な仕事を担っている。平成11年度、全学で購入した図書資料費は約2億7千万円であり、図書の総数は623,512冊、雑誌は13,172種類となった。平成12年度人事 新任 橋本香織（西生田図書館課）平成12年度図書委員会委員 馬岡清人（児童）佐藤克志（住居）野村益寛（英文）伊藤壽和（史）金子マーティン（現代社会）高橋行徳（文化）吉井 彰（数物科）庄野邦彦（物質生物科）（上村）

編集後記 目白の図書館は、1964年6月23日に開館して36年経ちました。建物も生き物であり、改修工事などしてリフレッシュする必要があります。西生田図書館は、開設10周年となりました。巻頭のカットは、西生田図書館課の新人橋本香織館員による。暑い夏の花火に若いエネルギーが感じられます。（田口）